

風力推進装置「VentoFoil」を内航船舶で初搭載した

新造船『新栄丸』が就航しました。

『新：新栄丸』は、2025年2月末に運航を終えた『初代：新栄丸』の代替船で、4月1日から傭船が開始され、荷主であるUBE三菱セメント株式会社のセメント製品を北は仙台、そして千葉、東京、空見、豊橋といった東海地方以东の各サービスステーション向けを中心に輸送を担う予定です。

この『新栄丸』という船名は、1991年当時、宇部興産株式会社（現：UBE 株式会社）の6代目社長であった清水保夫社長によって命名されました。そこには「新しい未来に向かって、栄え発展を遂げて欲しい」という願いが込められており、今回もその船名が引き継がれることとなりました。就航後はその名に恥じぬよう、細心の注意を払いながら安全運航、安定輸送に努めてまいります。

本船は、総トン数：約16,000トン、全長：約160m、セメント積載量：20,000トンの船舶で、下記特徴に加え、内航船舶では初となる風力推進装置『VentoFoil（*）コンテナ型』を1基試験搭載しています。当社は、本プロジェクトのような環境負荷低減を目指す取り組みへ積極的に参加し、内航海運の更なる発展に貢献してまいります。

（*VentoFoil：境界層吸引を利用したサクシヨンウイング（吸引翼）と呼ばれるタイプの風力推進装置。翼の表面に発生する速度の遅い空気層（境界層）を吸引し、風の流れを整流化することで抵抗を減らし、推進効率を高めている）

○特徴

- ①船型改良を重ねて計画された最新船型を採用し、省エネルギー付加物として、スーパーベクトイン舵、エコステータ及びPBCFを装備し推進効率を改善。
- ②船底外板には低摩擦抵抗型塗料を採用し性能を向上。
- ③貨物艙は4つ、揚荷役系統は6系統あり、20,000トンという大量のセメントの効率輸送に適した貨物艙構造。
- ④船首尾部には、可変翼式バウスラスタ及びスーパーベクトイン舵を装備しており、操舵室船側部にも操作台を設けたフルブリッジ構造により、出入港時のスムーズな離着岸作業が可能。
- ⑤主機関は、高い信頼性を持ち、低燃費及び排ガス環境基準（NOx2次規制）を満足した電子制御2サイクルディーゼル機関を搭載しており、航海機器、無線装置も最新式の機器を採用。
- ⑥船体中央に居住区を設ける事で、動揺および主機関等の騒音を軽減。

○新「新栄丸」



○VentoFoil

